



日常への帰還

アスリートと宇宙飛行士の当事者研究

主催：東京大学先端科学技術研究センター
後援：公益財団法人日本オリンピック委員会
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

日時：2018年7月30日(月) 13:30～17:00

場所：東京大学先端科学技術研究センター3号館南棟1階ENEOSホール

趣旨

2020年のオリンピック・パラリンピックを前に、障害者コミュニティの中では、「これを機会に様々な領域でバリアフリーが進むのではないか」という期待と、「能力のある障害者がスポットライトを浴びることで、一般の障害者との間に格差を突きつけられ、むしろ、障害者の能力主義的な格差が助長されるのではないか」という懸念との間で、葛藤が生じているように思われる。オリンピック・パラリンピックは能力主義が先鋭化する舞台であり、その能力主義こそが、社会の中で障害者を苦しめてきたものであるという事実を振り返るとき、この点に関して様々な観点からの検討が必要である。

過剰な能力主義は、ほかならぬトップアスリートにも影響を与える。能力主義や競争原理の中で心身を消耗し、現役を引退した後、あるいは故障などで一線を退いた後に、新しい人生の目標を再構築し、「平凡な日常」に着地点を見出すことに困難を抱えている。成績向上やメダル獲得という短期的視野だけではなく、長期的かつ全人的なアスリートのサポートが重要である。

また、宇宙飛行士が宇宙から帰還した後、日常生活における心理的・身体的な困りごとは多岐にわたり、その中には、国家の威信を背負って孤独に邁進してきたアスリートが、日常に復帰する際に直面する困難とも相通じる部分がある。

以上のような問題意識を背景にして、本シンポジウムでは、国家的ミッションや巨大な資本を背負いつつ、極限的な状況に身を置くことになった人々にとって、いかに「日常への帰還」が困難なものになるのか、そして、彼らにとって必要な全人的なサポートとは何なのか、について考えたい。

参加申し込み：参加希望の方は下記のフォームから必要事項を記入の上送信ください。

<https://goo.gl/forms/zKhjxzaC6S6N0I8B3>

または「氏名」「連絡先」「所属」を記入し、FAXまたはメールにてお申込ください。

FAX：03-5452-5123

Email：info@touken.org

情報保障：手話通訳・パソコン通訳付

(そのほか、必要な配慮に関しては下記の問い合わせ先までご相談ください)

問い合わせ先：東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野熊谷研究室・古川

Email：info@touken.org

タイムテーブル

12:30~13:00	開場・受付
13:00~13:10	あいさつ 神崎 亮平（東京大学先端科学技術研究センター所長）
13:10~13:20	企画趣旨 熊谷 晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野）
13:20~14:00	オリンピックについてのその後の不自由 小磯 典子（元オリンピック／千葉ジェッツふなばしアカデミー専任講師）
14:00~14:40	パラリンピアン生きづらさ 花岡 伸和（元パラリンピアン／日本パラ陸上競技連盟・PUMA）
14:40~14:55	休憩
14:55~15:35	宇宙体験から日常生活への帰還：宇宙飛行士による当事者研究 野口 聡一（宇宙航空研究開発機構・東京大学先端科学技術研究センター）
15:35~16:50	パネルディスカッション「それぞれの帰還」 司会：熊谷晋一郎 パネリスト 小磯 典子 花岡 伸和 野口 聡一 指定討論者 上岡陽江（東京大学先端科学技術研究センター協力研究員）
16:50~17:00	総括 福島 智（東京大学先端科学技術研究センターバリアフリー分野）

シンポジスト



小磯 典子（こいそ のりこ）

元バスケットボール選手。アトランタと、アテネ2大会のオリンピックに出場。国内リーグ、9年連続ベスト5。3度の世界選手権に出場した。2010年現役引退後は、埼玉県春日部市に住居を構え、一児の母となり、千葉ジェッツふなばしアカデミーの専任講師を務めながら、出身地の長崎県総合体育館の館長。居住地の埼玉県女子U12チームのヘッドコーチでもある



花岡 伸和（はなおか のぶかず）

高校3年時にバイク事故で脊髄を損傷し車椅子生活となる。1994年から車椅子陸上を始め、2002年には1500メートルとマラソンの当時日本記録を樹立。車いすマラソンでアテネパラリンピック6位(日本人最高位)、ロンドンパラリンピック5位入賞を果たす。引退後も、早稲田大学大学院でコーチングを学び、選手支援、競技の普及振興に務めている。日本パラ陸上競技連盟副理事長・強化委員車いすブロック長。



野口 聡一（のぐち そういち）

JAXA宇宙飛行士。東京大学大学院修了。東京大学先端科学技術研究センター所属。2005年スペースシャトル「ディスカバリー号」のSTS-114ミッションに搭乗、3回の船外活動を実施する。09年日本人初のソユーズ宇宙船の副船長として半年に渡り国際宇宙ステーションに長期滞在。11年メドヴェージェフ大統領よりロシア宇宙探査功労勲章を受勲。14年世界中の宇宙飛行士の親睦団体「宇宙探検家協会」の会長に就任。17年日本質的心理学会論文賞を受賞。19年終わり頃に自身3回目の宇宙飛行が決定している。



上岡 陽江（かみおか はるえ）

ダルク女性ハウス代表。子どものころから重度のぜんそくで、小学6年から中学3年まで入院生活を送る。そのなかで処方薬依存と摂食障害になり、19歳からはアルコール依存症を併発。27歳から回復プログラムにつながった。1991年に友人と2人で、薬物・アルコール依存をもつ女性をサポートするダルク女性ハウスを設立。2003年に精神保健福祉士資格を修得。